阿蘇物語

～健磐龍命(たけいわたつのみこと)～

阿蘇を語る上で最初にお話ししたいのは、健磐龍命でしょう。
この神様は開拓の神様で、阿蘇神社の主祭神です。
健磐龍命（以後“みこと”）は阿蘇に色々な神話を残しています。
その物語を少しずつお話していきましょう。

生い立ち・・・“みこと”は神武天皇の孫にあたります。お父さんは神八井耳命（かむやいみみのみこと）です。そして神武天皇の命により九州統治の為派遣された神様です。阿蘇に入られたのは日向（宮崎）から高千穂を通ってと言われています。

“みこと”の神話の中で、一番の大仕事は何と言っても、阿蘇を蹴破ったお話でしょう。
時はさかのぼり、阿蘇がまだカルデラ湖だったときのお話…

“みこと”が日向から高千穂を通り阿蘇の外輪山にたどり着いたところ、そこには満々たる湖が広がっていました。これが阿蘇カルデラ湖でした。
湖の大きさは南北２５ｋｍ　東西１８ｋｍの大きさの湖の中央部に現在の阿蘇五岳がぽっかり浮かんでいました大きさ的には琵琶湖の半分より少し広いぐらいを想像してみてください。で、これが標高８００m前後の地点に広がっている。そりゃあ圧巻だったでしょうね。

まあ、“みこと”でなくても、蹴破ったらどうなるんだろうと思わないでもないですが、“みこと”はこの湖の水を抜けば、田畑として使え人々が暮らせるのではないかと考えたんです。さすが神様！

そこで、どこか水を抜くところがないかと探したところ、外輪山が一番低くなっている所を見つけました。現在の場所で言う“車帰り”の地点。
当然、一番低いところを蹴った方が楽ですよね
そして豪快にドーンと蹴ったのですが、破ることが出来なかったのです。例えばサッカーで言うところのシュートミスをして地球を思いっきり蹴った気持ちでしょうか。
では、なぜ蹴破れなかったのか？
それは、この部分は山が重なっておりさすがの神様でも破れないぐらいの頑丈さだったんですね。
そして、この部分は後に二重(ふたえ)の峠(とうげ)と言われるようになりました。

気を取り直して、今度は外輪山の高さは気にせずに、一番弱いところを蹴破りました。それが現在の“立野(たての)”と呼ばれるところです

いやー　水が勢いよく流れ出るところを見たかったな～